

第7章 FBI 総括報告書

炭疽菌事件が起きてから約9年後の2010年2月19日ようやくFBIからこの事件の総括報告書が公表された。

本章はその報告書の抄訳である。原本はFBIのウェブサイトからダウンロードすることが出来る。ⁱ

第一節 報告書要約

2001年秋に炭疽菌入り手紙が送られ5人が死亡17人が罹患した。最初の犠牲者が出てから直ちにFBIとUSPIS(郵便監察サービス)は特別捜査班を結成し、7年にわたって事件の調査をおこなった。

初期段階では、従来手法によって膨大な証拠が集められたにも関わらず、科学的手法に限界があり、この攻撃の犯人を決定できなかった。結局は従来手法と科学的な分析技術を組み合わせた結果、特定のフラスコに入った物質が炭疽菌攻撃に使われた事が判明した。

2007年までに米国陸軍感染医療研究所(USAMRIID)に所属するブルース・イビンス博士が所有する菌が攻撃に使われた菌の親株である事が判明した。その菌を扱うことができた人達を集中的に調べた結果、イビンス博士が単独で炭疽菌入り手紙を発送したという結論に至った。

2008年夏までにコロンビア特区検察局は連邦大陪審にイビンス博士が大量破壊兵器を使ったことで連邦法18章2332a節およびその関連罪にあたるという嫌疑で告訴する準備を進めていた。

その矢先の2008年7月26日にイビンス博士は鎮痛剤の過剰摂取により自殺を図り、2008年7月29日に死亡した。過去の調査結果によりイビンス博士が炭疽菌入りの手紙で攻撃したという結論が確定した。

第二節 炭疽菌による攻撃の全容

最初の犠牲者ロバート・スティーブンスが出て、ニューヨークとワシントンの犯行現場から炭疽菌入りの手紙が回収された直後に、FBIはマイアミ、ニューヨーク、ニューアーク、ニューヘブレン、ボルチモア、ワシントン特別区の各支所で調査を始めた。

BIとUSPISが「アメリスラックス特別捜査班」づくり、その他の方執行部門とともに捜査に当たった。7年の間に特別捜査班は60万時間を掛けて6大陸で1万人以上の証人とインタビューした。80回の捜索と6,000余りの証拠が集められた。5,750通の喚問状が発行されされ60箇所から5,730の環境サンプルが採取された。いくつかの海外現場は当該国

の協力を仰いで調査した。

この間特別調査班は 25～30 名の担当者がフルタイムで調査に当たった。調査の初期段階では、手紙が他国の支援により流布されたテロなのか、国際テロ組織によるものか、国内グループによるものか、あるいは単独犯であるのかが分からなかった。初期の捜査の大半は手紙に使われた菌株の分類に費やされた。遺伝子分析が必要なためこれには時間が掛かった。

2007 年、数年にわたる科学的な発展と遺伝子解析の進歩により、FBI 研究所と特別調査班は手紙に使われた菌株は、RMR1029 と名付けられた菌株（Ames 株）であると判断した。RMR-1029 は USAMRIID のブルース・イビンス博士が作り、培養していたものである。これによって特別捜査班は非常に限定された範囲を調べればよくなり、従来捜査手法を適用することにした。

（炭疽菌入り手紙が送られた状況およびそれにより生じた被害の記述がこの後に続くが、第 3 章でそれを述べているので、ここでは省略する。）

証拠によると手紙による攻撃は 2 回にわたって行われた。最初の攻撃では 2001 年 9 月 18 日に 2 通の手紙が NBC ニュースのトム・ブロコウとニューヨークポストに送られた。両社ともにニューヨーク市にある。

3 週間後の 10 月 9 日には 2 通の手紙がそれぞれダッシュル上院議員とリーヒー上院議員のワシントン DC 事務所へ送られた。

第三節 スティーブン・ハットフィル博士を 嫌疑者から除外

2002 年の 8 月にスティーブン・ハットフィル博士が特別捜査班の調査対象になっていることが広く知られるようになった。彼が手紙攻撃に関わったのではないかと疑う多くの人が FBI に連絡を取った。実際 1997 年から 1999 年まで USAMRIID に勤務していたハットフィル博士は Ames 株をなんの束縛も無く扱うことができたのである。

また、ハットフィル博士は炭疽菌を手紙で流布する（この方法は生物兵器業界では一般的ではなかった）ことの難しさを十分知っていた。

さらに 2001 年に抗菌剤 Cipro の処方箋を複数回もらっていた。だが、ハットフィル博士が当時罹患していた感染症の治療に使われたことは明らかだった。そしてハットフィル博士は RMR-1029 を扱える状況にはなかったことが明らかになり、嫌疑者からは除外された。

第四節 ブルース・イビンス博士の調査概要

科学的証拠に基づき、特別調査班は 2001 年 9 月 11 日～18 日、10 月 1 日～8 日に USAMRIID へ出入りした研究者に的を絞った。これらの研究者は面接され、時にはウソ発

見器にかけられた。また、それぞれの研究者が純粋な炭疽菌粉をつくる技術を持っているかどうか評価された。その結果 RMR-1029 を入手できたのはイビンス博士であり、同人が犯行を行なったと論証した。

捜査員はイビンス博士が一人で夜遅く、あるいは週末に RMR-1029 菌の保管場所に居たことをつかんだ。しかし、このような行動は、炭疽菌入り手紙が送られるより以前及び以後には見られなくなった。

捜査員がイビンス博士から入手した膨大な E メールを分析すると、炭疽菌入り手紙攻撃の期間を含め、彼に精神的な問題があることがわかった。調査員は USAMRIID のコンピュータを経由する E メール及び、個人的な E メールを監視し、同時に彼の車に GPS 装置を取り付け、同僚を尋問し、定期的にゴミ箱を調べた。

2007 年秋までに捜査員と検察官は秘密捜査の限界に達したと判断して、マリランド州フレデリクの自宅、車、USAMRIID の事務所の捜査許可証を取った。その結果イビンス博士は自分が捜査の対象となっている事を悟った。2007 年 1 月 1 日家宅捜査が実行され、20 年間に議員やニュースメディアへ送った大量の手紙（中には 1987 年に NBC ニュースの住所へ送られた手紙）、3 挺の拳銃、2 挺のスタンガン、検知装置、コンピュータののぞき見ソフトウェア、地下の一部にある射撃場などを発見した。

押収した手紙と炭疽菌入り手紙の関連（両方共議員ニュースメディアに宛てられている）ことから、イビンス博士が炭疽菌入り手紙の攻撃を行なった事を示唆している。

2008 年 1 月および 2 月特別調査班はイビンス博士と弁護士同席の上 3 回の面接を行なった。2008 年 7 月 12 日に特別調査班は 7 月 9 日のグループセラピーでイビンス博士が脅迫をしたと言う新たな証拠を元に再び家宅捜査を行なった。その捜査で防弾チョッキ、手作りの防弾板、数百発の銃弾、無煙火薬を発見した。

第五節 イビンス博士捜査結果の総括

1. 機会： イビンス博士は RMR-1029 に近づけた人の中で、唯一、炭疽菌を粉末化する技術を有していた。
2. 動機： イビンス博士が 20 年余りにわたって研究していた炭疽菌ワクチンの開発が失敗しつつあった。
3. 精神病： 精神的障害が犯罪を犯す元になった。
4. 封筒の近似： 炭疽菌入り手紙を送った封筒はマリランドとバージニアの郵便局に配られた一群の封筒の一部が使われた。マリランドとバージニアの郵便局はいずれもイビンス博士の家から数ブロックのところにある。
5. 手紙に使われた言葉： イビンス博士が 2001 年 9 月 26 日に同僚に送った E メールの中で「私は今晚ビンラディンが炭疽菌とサリンを持っていると聞いた。ビンラディンはすべてのユダヤ人とアメリカ人に死を宣告した。」と書いている。炭疽菌入り手紙は「09-

11-1」などアルカエダとの関連を示唆する言葉が入っている。さらに A とか T は太文字で書かれていて、暗号を含んでいる事を示唆している。イビンス博士はこういった暗号を好んでいた。

6. 罪の意識：イビンス博士が行なった一連の行動は、彼に罪の意識があった事を示している。炭疽菌攻撃の直後、彼は CDC 感染症治療・予防センターへメールを送っている。それは最初の犠牲者がなぜ炭疽病にかかったか、といった無意味なものであった。炭疽菌攻撃の数カ月後、自分が働くビルで炭疽菌汚染がないかどうか、公式許可なくサンプル採取を行なった。その後除菌を行ない、その報告をしなかった。調査中に彼は嫌疑を他所に向けようと前の二人の同僚が炭疽菌攻撃を行ったのではないかという E メールを出している。
7. 身元隠匿の歴史：彼は手がみや小包をだすのに遠い郵便局へ行く癖があった。他の人と連絡をとる場合、偽名を使うことがあった。
8. 執着行動：彼は学生会館に執着がある。40 年ほど前に KKG (カップ・カップ・ガンマ) に執着していて、三時間あるいはそれ以上かけて KKG の支部会館を訪れていた。炭疽菌入り手紙が出された郵便ポストはプリンストン大学の学生会館にあり、イビンス博士の自宅から車で三時間のところにある。
9. 自分の振る舞いを説明できない：彼は炭疽菌入り手紙事件起きる前の数日の間、時間外に研究室にいた事を納得出来るように説明する事ができなかった。また、RMR-1029 の疑わしいサンプルを FBI に提供したのか、合理的な説明ができなかった。

第六節 被疑者の個別評価

被疑者をイビンス博士に絞る前に、複数の被疑者がいたため特別捜査班は以下の基準に基づいて被疑者を個別に評価した。

1. Ames 菌を入手できたか
2. 炭疽菌の粉末化に関する知識があったか
3. 細菌研究の研究履歴や能力があるか
4. 違法行為の申し立てがあったか
5. 攻撃の同期はあるか

この基準の全部または一部にあてはまる数百人について調査したが、次第に RMR-1029 に的を絞っていった。その結果浮かんだ被疑者は以下の 12 人であった。

- A) 同僚に自分は炭疽菌入り手紙を作れる、わずかな候補者の一人だと語った医師。彼は財政的な問題を抱え、しかも炭疽菌粉末化の知識を持っていた。
- B) 外国の生物兵器プログラムに関わった重要人物と密接な関係を持ち、化学物質的・生物物質に強い関心を抱いている科学者。

- C) Ames 菌を入手できる立場にあり、その兵器利用、生物兵器によるテロ、あるいは戦争に強い関心を持った研究者。
- D) Ames 菌を入手できる立場にあり、バクテリア培養の専門家である研究者。
- E) 攻撃を行う動機になる財政問題を抱え、ワシントン特別区の炭疽菌入り手紙が送られた日に近いときにニュージャージーへ旅行した科学者。
- F) Ames 菌を入手できる立場にあり、生物物質を精製し兵器化する事を他の人たちに教えていた科学者。
- G) Ames 菌の入っていたビルの保守を担当し、匿名の手紙により彼は強い反米感情を持っていると訴えられた外国籍の研究者。
- H) アルカエダおよびアンサル・アル・イスラムといったテロリストにつながりがあると疑われ、炭疽菌粉末化について働いていた外国生まれの科学者。
- I) アルカエダの炭疽菌プログラムに関わっていると疑われていた微生物学の学生。
- J) アルカエダの訓練施設から見つかった微生物学論文の執筆者である外国生まれの科学者。
- K) 反米論を述べた疑いがあり、プリンストンの近くに住んだり働いた事があるニュージャージー在住の外国生まれの微生物学者。
- L) 手紙事件の直前にハミルトンの集配センターを退職し、米国にあるアルカエダの炭疽菌製造研究所と関係があると疑われた郵便局員。
- M) 炭疽菌を武器として使う能力と資質があると思われる科学者。
- N) 以前の同僚が、普通ではない行動をしていると FBI に告げた科学者で、価格さえ折り合えば仕事を受けるというフリーランスの研究者。
- O) FBI に、公表された炭疽菌テロリスト像に合致する、と何度か通告があった米国に怨みを抱いている研究者。
- P) 炭疽菌攻撃ののちに自殺し、炭疽菌攻撃に何らかの関係を持つのではないかと疑いがある微生物学者。
- Q) 炭疽菌を兵器化し製造することができると思われ、炭疽菌攻撃をする動機となる財政問題を抱えた科学者。
- R) 以前の雇用者に復讐すべき理由をもち、同僚も関心を示していた不満を持つ外国人科学者。

以上の人たちはアリバイや、能力不足、あるいは RMR-1029 を入手できない、などの理由で被疑者から除外された。

第七節 同時に行われた様々な捜査

炭疽菌攻撃によって利益を得る企業がないかどうかを調査した。

- 炭疽菌ワクチンの製造：ワクチン製造会社を調べた。当時は1社しか無く、この会社が

正規製法に反したため FDA が差し止めていた製造許可を、2001 年の炭疽菌攻撃の後、ワクチン需要が高まったため再び許可した。

- 家畜産業：生きた炭疽菌を入手する機会がある家畜産業（200社に上る）を調べ、炭疽菌を集めた企業がないかを調べた。
- 生物化学産業：企業や研究所、製造施設を調べ Ames 株を入手したかどうかを検証した。
- バイオ殺虫剤企業：一般に広く使われる微生物除菌剤は *Bacillus thuringiensis* (“Bt”) と呼ばれ、炭疽菌に似ているが無害な孢子形成バクテリアである。Bt を作る装置や技術は炭疽菌製造にも使えるとして捜査した。
- 研究施設：炭疽菌粉をつくるには格納容器が必要であるから、研究施設の格納容器を調査した。
- ダッシュル上院議員とリーヒー上院議員の文通レビュー：何故この二人が攻撃の対象になったのか心当たりがないかを調べた。その結果二人には炭疽菌入り手紙には何の関わりもないことがわかった。
- グリーンブルック小学校の記録調査：炭疽菌入り手紙が投入されたプリンストンの集配箱から 11 マイル離れた小学校が何故返信の住所に指定されたのかを知るために数十年に遡って生徒記録を調べた。
- 攻撃対象となった企業のウェブサイト調査：
nbc.com, nypost.com, pagesix.com, congress.org, senate.gov, cbsnews.com のメーリングアドレスおよびウェブサイトへのアクセスを 2001 年 10 月 15 日から遡ること 90 日に渡り調査した。集められた 1 億件余のデータはデータベースに収められ、封筒のスタンプに押された日付以前に関連するウェブサイトへアクセスした IP アドレスの検出に用いられた。
- 炭疽菌入り手紙事件後に起きた不審死：ニュージャージー州マーサ郡で 2001 年 10 月から 2002 年 2 月の間に起きた不審死は 77 件あったが、いずれも関連なしと判定された。

USAMRIID の研究者は炭疽菌入り手紙が送られた直後に、特別調査班から誰に、何処の研究室に USAMTIID が Ames 株を送ったかを聞かれた。

イビンス博士はこの要求に怒って 2001 年 10 月 12 日に同僚に次のメールを送った。

誰にいわゆる Ames 株を送ったか答えよう。

- A) それは明らかに 50 年経ったものだ。
- B) USAMRIID はこの株を 20 年前に受け取った。
- C) この菌は USAMRIID 株では無く USDA 株だ、米国陸軍あるいは国防総省の株というべき。
- D) 株の所在を問われるべき人はマリランド州フレデリックに居る者では無く、アイオワ州 Ames にいる者だ。

- E) USAMRIID よりもセキュリティが低い米国の研究所で人体に発症させる菌を持つところだ。
 - F) もし我々がこの質問を受ける唯一の研究者であるとするれば、我々が DOD（国防総省）の研究者であることを中傷する輩の嫌がらせだ。
 - G) B-Anthrax(炭疽菌)株を USDA が他のどの組織へ送ったかをいうことは USAMRIID 研究者の権限外である。私と他の研究者がいわゆる Ames 株を送った先は・・・
(訳註：この先は消されている)
-

特別調査班は 2004 年 8 月あたりからイビンス博士の調査を開始している。調査報告書は FBI のウェブサイト公開されているがⁱⁱ、つぎのページにその一部を引用した。

公開された報告書（2004 年 11 月 8 日）は白塗り箇所が半分近くを占めていて、内容判読はできない。

（2008 年 7 月 2 日）の報告書は「USAMRIID の誰が手紙に入れた炭疽菌を作る能力があるか、そしてイビンス博士がダッシュルおよびリーヒー上院議員に送る動機があったかを報告している。彼は熱心なカソリック教徒で、妊娠中絶に反対していたが両上院議員は妊娠中絶に賛成の立場であった、また、1998 年のハロウィーンの日偽の炭疽菌手紙が送られた先はケンタッキー州ルイスビルの妊娠中絶病院であった、と書いている。

だが、このニセ手紙をイビンス博士が書いたとは報告していない。

☒ 1 2004年11月8日

FD-302 (Rev. 10-6-95)

ALL INFORMATION CONTAINED
HEREIN IS UNCLASSIFIED
DATE 12-16-2008 BY 60324 UC BAW/DK/TH

- 1 -

FEDERAL BUREAU OF INVESTIGATION

b6
b7C

Date of transcription 11/08/2004

On November 2, 2004, Special Agents [redacted] and [redacted] interviewed [redacted] at [redacted] place of residence at [redacted]. [redacted] does not have [redacted] has a cellular telephone: [redacted] and a pager: [redacted]. After being advised of the identities of the interviewing Agents and the nature of the interview, [redacted] voluntarily provided the following information:

[redacted] received [redacted] degree in [redacted] attended [redacted] and received [redacted] degree in [redacted] is currently an [redacted] [redacted] is currently working at [redacted]

[redacted] worked at the U.S. Army Medical Research Institute of Infectious Diseases (USAMRIID) [redacted] worked at USAMRIID [redacted] obtained this position [redacted] IVINS [redacted] did not have any access to hot suites during [redacted] employment and did not work with anything other than [redacted] USAMRIID as a full-time employee [redacted] after graduating from [redacted] Prior to starting [redacted] employment at USAMRIID, [redacted]

IVINS and [redacted] were the people [redacted] while at USAMRIID. IVINS was the Principal Investigator [redacted] role at USAMRIID was to [redacted] different strains of anthrax, including the Ames strain [redacted] referred to the paper published on the study to ascertain the correct number of strains tested). The goal of the study was to determine the [redacted]

Investigation on 11/2/2004 at [redacted]
File # 279A-WF-222936-USAMRIID - 1001 Date dictated N/A
by SA [redacted]
SA [redacted]

This document contains neither recommendations nor conclusions of the FBI. It is the property of the FBI and is loaned to your agency; it and its contents are not to be distributed outside your agency.

图 2 2008年7月2日

FD-302 (Rev. 10-6-95)

ALL INFORMATION CONTAINED
HEREIN IS UNCLASSIFIED
DATE 12-05-2008 BY 60324 uc bsr/rsl

FEDERAL BUREAU OF INVESTIGATION

Date of transcription 07/02/2008

[redacted] Date of Birth (DOB): [redacted] b6
[redacted] Social Security Account Number (SSAN): [redacted] b7c

[redacted] was telephonically contacted at [redacted] residence on the morning of July 02, 2008. [redacted] was already familiar with the identity of the interview Special Agent, after being advised of the nature of the interview [redacted] provided the following information:

In reference to two emails dated June 12, 2008, that [redacted] had sent writer [redacted] advised that after reflection of who at United States Army Medical Research Institute of Infectious Diseases (USAMRIID) had the capabilities to produce the anthrax used in the anthrax-laced letter mailings. [redacted] also was thinking about who may have had motive as well. [redacted] continued BRUCE [IVINS] had the capability and possibly the motive. [redacted] noted that IVINS was "devote Catholic" and "everyone [at USAMRIID] knew he practiced the faith." [redacted] opined IVINS was anti-abortion. [redacted] noted that U.S. SENATORS LEAHY and DASCHLE were amongst a list of pro-abortion Catholics in the U.S. Senate, and that the N.Y. Post and BROKAW were liberal towards women's rights.

[redacted] recalled that the first anthrax-hoax letter recovered was sent to an abortion clinic in Louisville, Kentucky, on Halloween in 1998. [redacted] opined that re-examination of this letter as well as those to an unspecified women's group in Virginia may prove useful.

[redacted] advised that prior to the first Gulf War, circa 1990-1991 time frame, there were many Division meetings at USAMRIID. [redacted] noted that [redacted] expressed at these meeting that it would be likely for a foreign nation, such as Iraq, to use a strain of anthrax as a bioweapon that was indigenous to the region. [redacted] recalled that it would be difficult to prove, that should any anthrax be used against the U.S. troops, that what they were infected with came from a bioweapon versus naturally occurring. [redacted] reiterated this was expressed at the numerous Division meetings by [redacted] however [redacted] could not recall specifically if IVINS was at such meetings or expressed similar thoughts.

[redacted] opined that perhaps the mailer of the anthrax-laced letters of 2001 applied the same logic; that is "We have the [redacted]

Investigation on 07/02/2008 at [redacted] (telephonically)

File # 279A-WF-222936 - 20 Date dictated N/A

by Special Agent [redacted]

This document contains neither recommendations nor conclusions of the FBI. It is the property of the FBI and is loaned to your agency; it and its contents are not to be distributed outside your agency.

i Amerithrax Investigative Summary

<https://www.justice.gov/archive/amerithrax/docs/amx-investigative-summary.pdf>

ii <https://vault.fbi.gov/Amerithrax>